

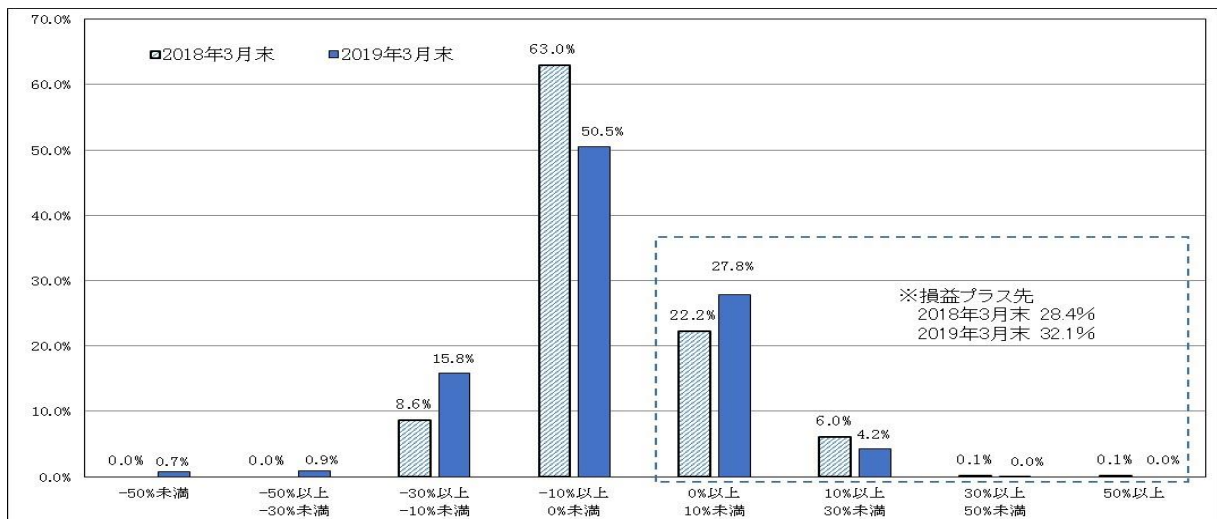
「お客さま本位の業務運営」の取組状況について

1. 投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI

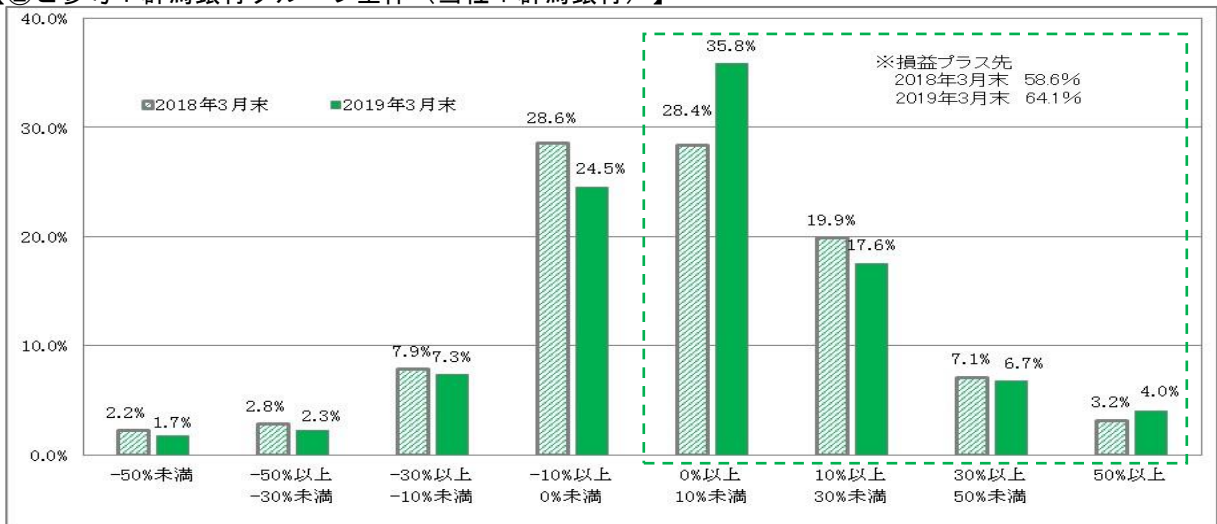
(1) 投資信託の運用損益別顧客比率(共通KPI)

- 投資信託を保有されているお客さまについて、基準日（2018年および2019年3月末）時点の保有投資信託に係るご購入時以降の累積の運用損益（手数料控除後）を算出し、運用損益別の比率をお示ししております。
 - 2019年3月末基準で運用損益がプラスになっているお客さまの比率は32.1%（前年比+3.7ポイント）となりました。運用損益別顧客比率では「-10%以上0%未満」の層が最も高い比率となっておりますが、これは、当社が開業後間もないことから、お客さまの投信保有期間が短くなるため（※）、投資信託ご購入時のお申込手数料に相当する分のマイナスが大きく影響しているものと考えています。
 - なお、当社のビジネスモデルは、群馬銀行との「銀証連携」をベースとしたものであり、全てのお客さまが群馬銀行とお取引のあるお客さまとなることから、グループ全体の「運用損益別顧客比率」についても合わせて公表させていただきます。
- ※ 本件基準日は、当社開業後2年6ヶ月が経過した段階であり、お客さまの投資信託の保有期間が「2年6ヵ月未満」での運用結果となります。

【①当社単体(共通KPI)】



【②ご参考：群馬銀行グループ全体(当社+群馬銀行)】

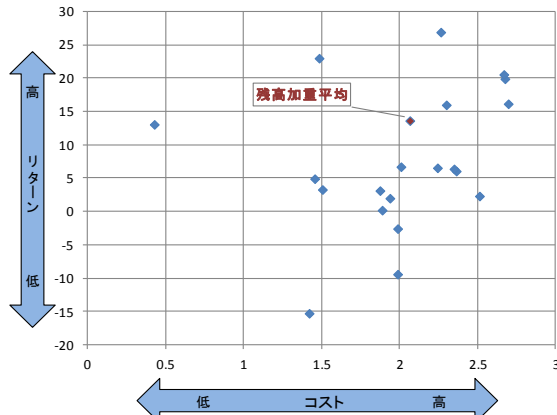


- ※ 対象となるお客さま
基準日時点で投信を保有されている個人のお客さま
- ※ 対象商品
基準日時点で対象となるお客さまが保有されている投資信託
- ※ 対象となるお取引
①: 当社証券口座（紹介口座+仲介口座）におけるお取引
②: 上記①+群馬銀行の投資信託口座によるお取引

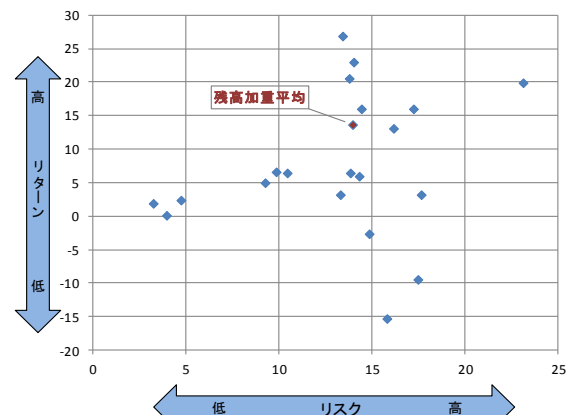
(2) 投資信託の預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン(共通KPI)

- 設定後5年以上の投資信託の預り残高上位20銘柄(2018年および2019年3月末基準)について、銘柄ごとおよび預り残高加重平均のコストとリターン、リスクとリターンの関係をお示ししています。
 - この指標により、コストに見合ったリターン実績を持つ商品や、リスクに見合ったリターン実績を持つ商品を多くお客さまに提供しているかを見ることができます。
- ※コスト：販売手数料率の1/5と信託報酬率の合計値
 ※リスク：過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算)
 ※リターン：過去5年間のトータルリターン(年率換算)

【2018年3月末】

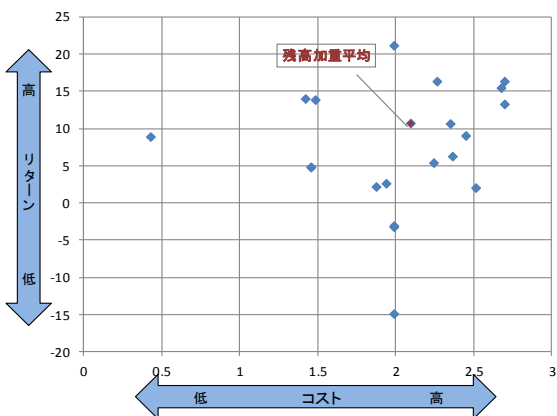


残高加重 平均値	コスト	リターン
	2.07%	13.61%

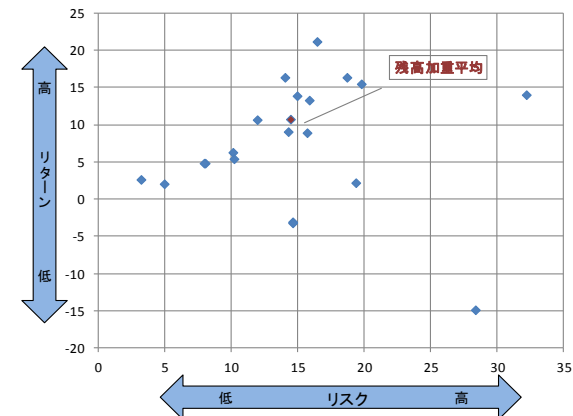


残高加重 平均値	リスク	リターン
	13.99%	13.61%

【2019年3月末】



残高加重 平均値	コスト	リターン
	2.10%	10.65%



残高加重 平均値	リスク	リターン
	14.51%	10.65%

※ 投資信託の預り残高上位20銘柄(2019年3月末基準)

銘柄名	銘柄名
1. ひふみプラス	11. ブラジル・ボンド・オープン(毎月決算型)
2. 三井住友・げんきシニアライフ・オープン	12. eMAXIS 日経225インデックス
3. 高成長インド・中型株式ファンド	13. メキシコ債券オープン(毎月分配型)
4. 投資のソムリエ	14. 財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型
5. netWIN ゴールドマン・サックス・インターネット戦略ファンドBコース(為替ヘッジなし)	15. アジア好利回りリート・ファンド
6. 東京海上・ジャパン・オーナーズ株式オープン	16. netWIN ゴールドマン・サックス・インターネット戦略ファンドAコース(為替ヘッジあり)
7. 野村インド債券ファンド(毎月分配型)	17. ニッセイ・ワールドスポーツ・ファンド -メダリスト-Bコース(為替ヘッジなし)
8. フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド	18. メキシコ債券オープン(資産成長型)
9. トルコ・ボンド・オープン(毎月決算型)	19. 日本トレンド・セレクト ハイパー・ウェイブ
10. GSアジア・ハイ・イールド債券ファンド 円コース	20. 財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)資産成長型

2. 「お客さま本位の業務運営」の取組状況および成果指標（自主的KPI）

（1）お客さまのお役に立つ商品の選定

- 投資信託については、外部評価会社から公表されているデータ等を参照し、想定されるリスク・リターンや手数料比率等が、同一カテゴリーの商品と比較して適切であることを検証するなかで商品選定を行っております。今年度は、あらたに8商品10ファンドの取扱いを開始しました。
- お客さまのニーズに応じた商品提案を実践するなかで、投資信託の販売上位商品はここ2年間でも大きく変動しております。販売上位商品に「毎月分配型」商品は含まれておらず投信販売額における「毎月分配型」商品販売比率、投信残高における「分配金比率」は、低水準かつ低下傾向にあります。また、「系列運用会社商品販売比率」は極めて低い水準となっています。
- 投資信託以外にも外国株式（30銘柄）の取扱開始や公募債券の新商品取扱いなどにより、お客さまのより幅広い資産運用ニーズにお応えするため、商品ラインナップ・サービスの充実を図って参りました。

【投資信託の販売額上位5商品】

	2018年3月期		2019年3月期	
	商品名	構成比	商品名	構成比
1	ひふみプラス	10.4%	eMAXIS 日経225インデックス	10.3%
2	グローバルAIファンド	10.0%	ワールド・ビューティ・オープン (為替ヘッジなし)	7.9%
3	三井住友・げんきシニアライフ・オープン	9.7%	GSグローバル・ビクデータ 投資戦略 Bコース (為替Hなし)	7.5%
4	高成長インド・中型株式ファンド	9.5%	netWIN GS・インターネット 戦略F Bコース為替Hなし	7.0%
5	野村PIMCO・世界インカム 戦略ファンド Aコース	7.3%	サイバーセキュリティ株式オープン (為替ヘッジなし)	5.9%

* 対象取引：個人取引先に対する投信販売

【投信販売額に占める系列運用会社商品販売比率】



* 対象取引：個人取引先に対する投信販売

【投信販売額に占める「毎月分配型」商品販売比率】



* 対象取引：個人取引先に対する投信販売

【投資信託残高における分配金比率】



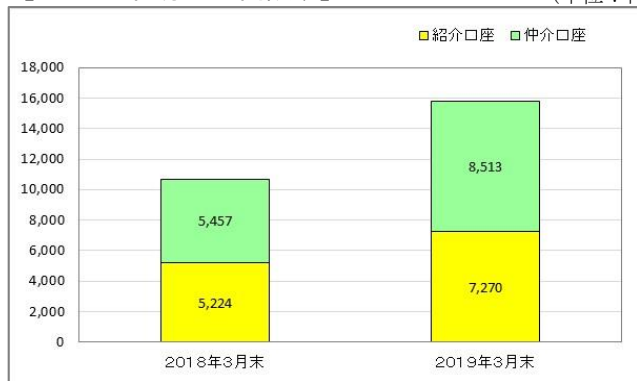
* 対象取引：個人取引先の投信残高

(2) お客さまにふさわしい商品・サービスの提供

- 当社は、銀行では対応できない専門的な商品・サービスを提供することにより、群馬銀行グループのお客さまの幅広い資産運用ニーズにお応えすることを目的に設立されました。
- 群馬銀行から証券会社取引ニーズのあるお客さまの顧客紹介等を受ける「銀証連携」施策に基づき、当社の顧客基盤の拡充を図っております。
- 専門性の高い投資信託や債券、外国株式等豊富な商品ラインナップに基づき、お客さまのニーズやポートフォリオの状況等をお伺いするなかで、「最適な商品」提案の実践に向け取り組んでおります。
- 群馬銀行及び大手証券会社と連携するなかで各種セミナーを開催し、幅広いお客さまに対し、金融リテラシーの向上や投資判断に資する情報提供等に取り組ましました。

【ぐんぎん証券口座開設数】

(単位：件数)



* 対象取引：個人及び法人取引先

【ぐんぎん証券商品種類別残高】

(単位：百万円)



* 対象取引：個人及び法人取引先。約定ベースの残高。

【セミナー開催回数】

(単位：回数)

	共催先等	2018年3月期	2019年3月期
資産運用セミナー	群馬銀行	9	9
経済セミナー	証券会社(※)	1	2

※SMB C日興証券株式会社、野村証券株式会社

(3) 人材育成・評価

- 群馬銀行の実施するセミナー等の対策講座への参加を推奨し、1級FP技能士や預かり金融資産に関する行内資格所有者は増加傾向にあります。
- 店舗表彰および個人の業績表彰において、お客さま本位の営業活動への取組状況を評価する項目を導入し「お客さま本位の業務運営」の徹底を図っております。

【資格取得状況】

(単位：人)

		2018年3月末	2019年3月末
FP技能士	1級(※1)	113	116
	2級(※2)	2,008	2,069
預かり金融資産	上級(※3)	95	116
	中級(※3)	605	643
	初級(※3)	498	602

※群馬銀行行員および当社社員合算

※1 CFP含む

※2 AFP含む

※3 行内資格